

議案第 1 号 直行坂東号の中間評価と令和 6 年度の運行について

＜議案要旨＞

直行坂東号については、令和 6 年度も現在の運行を継続する。

1 直行坂東号の概要・経過

- ・東京方面への交通利便性向上による転出抑制及び定住促進を図ることを目的に、守谷駅と本市を結ぶ通勤・通学者向けの直行型路線バスとして、平成 28 年 3 月から運行を開始した。
- ・運行内容としては、(株)関東鉄道が運行する既存の路線バスが運行しない時間帯を補う形で、平日の朝 1 便（守谷駅行き）と夜 2 便（坂東市内行き）を、速達性の高い直行型の経路で運行している。

※当初は計 6 便運行していたが、国の交付金終了にともない、令和元年度から計 3 便に減便

- ・次年度の運行については、本会議において中間評価を行い協議することとしている。

※目標値 ⇒ 1 便あたり平均利用者数 3 人以上

2 利用状況

別紙 1 のとおり

▼ 1 便あたりの平均利用者数

目標値		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5 (4～10 月)
3.0 人以上	⇒	2.4 人	1.2 人	1.6 人	3.2 人	4.1 人
(内訳) 6:45 坂東市発		3.8 人	2.2 人	2.5 人	5.4 人	8.2 人
19:00 守谷駅発		1.2 人	0.9 人	1.2 人	2.7 人	2.6 人
20:45 守谷駅発		2.1 人	1.0 人	1.0 人	1.4 人	1.5 人

3 中間評価

- ・令和 2 年度及び 3 年度は、コロナ禍の影響もあり利用者数が減少していたが、その後は増加傾向にある。
- ・令和 4 年度は、1 便あたりの平均利用者数が 3.2 人となり、運行開始以降初めて目標値 (3.0 人) を上回った。令和 5 年度 (4～10 月) についても、1 便あたりの利用者数が 4.3 人で増加している状況にある。
- ・運行時間別にみると、特に「岩井バスターミナル 6:45 発 (守谷駅行き)」の利用が多く、令和 5 年度は、1 便あたり平均 8.2 人が利用している。一方で「守谷駅西口 19:00 発 (坂東市行き)」及び「守谷駅西口 20:45 発 (坂東市行き)」については、1 便あたり平均利用者数が合わせて 4.1 人となっている。

→ 朝は直行坂東号で守谷駅まで行き、守谷駅からの帰りは別の移動手段 (急行坂東号等) を利用している方が一定数いると考えられる。

4 令和6年度の運行について

令和6年度も現在の運行を継続する。

